

# Captain English Course I・II

## 強く生きる力を生徒に



高橋正広

「英語なんてどうせ分からないから。」「無理。できっこない！」などと、英語に対して苦手意識を持ってしまった生徒はクラスにいませんか。そんな生徒に、初めて英語に触れた時の感動を思い出してほしい。英語は特定の人だけが話すものではなく、誰もが楽しむことのできるものだとこのことを知ってもらいたい。Captain English Courseはこのような方針で作られた教科書です。

今回は Captain I から3つのレッスンを取り上げて教案作成のアイデアを紹介します。教科書本文に目を通す前に、Your Turn! (各レッスンの最後にある演習問題)を見て下さい。[C] 問題にはレッスンの表現を使った言語活動があります。それは各レッスンの最終目標とも考えられます。一般的にはGet Readyを行い、本文を読み、続くFor CommunicationとYour Turn!に目を通してから指導案を作るのですが、今回は発想を転換し、最終タスクを確認してからレッスンをどのように教えるかを考えていきたいと思います。

### ●Lesson 4 “Be Your Own Captain”

Your Turn! [C]を見ると、“want(ed) to”を使った表現がこのレッスンのねらいであることが分かります。次にGet Readyと本文で課の重点項目を確認し、右上のプリントを作成します。

(2)(4)が難しいですが、適宜“I practiced it very hard”や“I want to be famous”などの例を出します。この活動は本文に入る前の動機付けとして行い、“want to”に限定して動詞の現在形と過去形の違いを説明します。生徒に英文を書か

Hello. I'll tell you about my dream.  
 今日は。私の夢について話をします。

When I was a child, I wanted to be ( 1 ) because I ( 2 ).  
 子供のころは ( 1 ) になりたかった。( 2 ) だからです。

Now I want to be ( 3 ) because I want to ( 4 ).  
 今は ( 3 ) になりたいです。( 4 ) だからです。

The most important thing is our effort toward our dream. We are the captain of our life. Thank you.  
 一番大切なことは夢に向かって努力することです。私たちが人生のキャプテンなのです。ありがとうございました。

せる作業はALTとのチーム・ティーチングで行うと効果的です。プリントが完成したら発表の練習をします。プリント最後の下線部は先生の解説が必要でしょう。その際、文法的な説明を最小限にとどめ、その代わり生徒に何回も音読するように指導します。プリント作成と発表準備にそれぞれ1時間ずつかけます。

発表はクラス全員が行うのが好ましいですが、無理ならばできる範囲とします。一人一人の発表の後に“What did s/he want to be?”や“Why?”などの質問をALTにしてもらい、答えた者にはポイントを与えるなどすると、クラス全体を授業

に参加させることができます。発表の次の授業から Get Ready で文法解説をし、本文を読んでいきます。本文のキーワードをすでに理解し練習した後なので、本文の内容把握は生徒にとってより簡単になっているはずです。本文最後のパラグラフは発表で使用して何回も繰り返し音読しているので、生徒にはなじみのあるものになっているでしょう。また、レッスンの結論を本文を読む前に与えることによって本文の理解は容易になっているとも言えます。最後のパラグラフでは日本語を使わず、音読だけで生徒の理解を確認できたから、このレッスンは大成功です。

本文の後、For Communication, Your Turn! [A] [B] へ進み、[C] を見たとき生徒は授業の全ての枠組みを理解します。「君たちが優秀だから、この課の最終目標であるこのタスクはもう終わってしまっているんだよ」と言って生徒に自信がつけば、お互いに大きな達成感を味わえるでしょう。

### ●Lesson 8 “A Helping Hand”

このレッスンでは班別にポスターを作成する中で受身を学習します。まず、老人ホームへの支援として考えられるものを “Let’s ~” の形で 2, 3 文作ります (例: Let’s send origami. Let’s talk with them. など)。次に、下の型に考えた英文を当てはめてポスターを作ります。

**Give your energy and time for  
Senior Citizens!**

Let’s ~.

Let’s ~.

**A lot of things CAN BE DONE.**

ポイントは、ポスターにある英文の文法解説を最小限にすることです。“can be done” という表現を基礎から説明するのは大変なことですが、“be done” は「なされる」、 “can” は「可能」、だから英文の意味は「多くのことがなされます。そ

れは可能です。」などと簡単に教えます。ポスターの英文を何回も練習して全て暗記した上でグループ発表させることによって、例文の定着を図ります。つまり “trick them into practicing many times” するのです。受身の詳しい文法説明はこの後に行い、「できることはたくさんあります。」という例文の正しい訳は “can be done” が本文に出てきたときに考えさせます。

### ●Lesson 10 “War of the Landmine”

このレッスンでは班別にクイズを考えさせ、有名人の名前を当てさせます。まず、下の型を完成させます。

This is a person. He likes ( 1 ).  
He is a ( 国名形容詞 ) person. He is ( 2 ).  
例: This is a person. He likes soccer.  
He is a British person. He is good-looking.

次に下線部を “who” に変えて 2 文をつなげるように指示し、音読練習してからクイズを始めます。ポイントは(2)に形容詞を使うことで、語彙リストを作っておいてもいいでしょう。

\* \* \*

これらレッスンにはひとつの共通のメッセージがあります。「自分たちの周りには様々な境遇の人がいる。その生き様を見て、皆さんも強く生きてほしい」。 *Captain II* の Lesson 9 “Don’t Give Up” には特に強く、その願いが込められているように感じられます。英語 I, II の総仕上げとして、自分が最も印象に残った文を抜き出し、カード等を書いて大切な人に贈らせても、英語を 2 年間勉強した達成感を味わわせられるでしょう。

英語の学習は大事なことです。しかし言葉を使うのは人です。 *Captain* は人を育てる題材を提供し、生徒の生きる力を育てる教科書です。

(たかはし まさひろ・神奈川県立大和西高等学校教諭)